

「第 14 回 地域医療を考える市民の集い」 開催報告

【テーマ】 ～超高齢化社会。自宅で最期まで安心して過ごすために～

【日 時】 令和 7 年 2 月 23 日（日）午前 10 時～11 時 30 分

【場 所】 津島市民病院 2 階 講義室

【主 催】 海部地域医療サポーターの会

【内 容】 第 1 部 「在宅緩和ケアについて」
・ 24 時間応需の在宅医療体制
第 2 部 「権利擁護について」
・ 高齢者や認知症、障がい者の権利が制限されるのを防ぎ、自分らしく生活するために
第 3 部 「パネルディスカッション」
・ 人生の最期まで自分らしい暮らしを続けることができる仕組み

【総 括】 第 1 部では、日本緩和医療学会指導医 橘クリニック院長 浅井先生により、緩和ケアと 24 時間応需の在宅医療体制、理想の訪問診療体制についてお話しされました。医療処置などがあっても在宅で療養生活ができること、在宅医として患者さんを主語にした関わりについてなど、わかりやすく教えていただきました。

第 2 部では、愛西市社会福祉協議会 ふくしの相談窓口 佐藤氏より、自分がどのように最期を迎えたいか、意思表示ができなくなった時のことも考えたエンディングノートの活用、任意後見制度・成年後見制度などの手続きについて、詳しく説明していただきました。

第 3 部では、パネルディスカッションを行いました。パネラーは、橘クリニック院長 浅井先生・ふくしの相談窓口 佐藤氏・津島市訪問看護ステーション訪問看護認定看護師 田中氏の 3 名、コーディネーターは、海部地域医療サポーターの会 代表 横井氏でした。訪問看護師からは訪問看護でできることの具体的な説明と在宅診療医との連携、24 時間電話相談対応をしていることなどをお話しされました。

会場に来られた方々からたくさんの質疑があり、在宅医療、自分らしい最後の迎え方、成年後見制度についてなど、関心の高さがうかがえました。